大沼義彦

- . 市の素案に対する意見
- . 市民会議が考える重点

「これを市民会議として提案すべき」という内容での自分の考え

- 1. 市の素案のこの部分を具体的にこう考えるべき
- 2 . 当面はこの方面の施策に力点を入れるべき

大沼に課せられた課題「だれもが身近でスポーツを楽しめる環境をつくる」

そのための「支援」環境という視点で考える。

現状認識:これまでは、主に施設を造り、それを管理するという支援に力点が置かれてきた。 だから、スポーツやる人のことはあまり関係なかった。とにかく、場所があればやるだろうと いう認識が根底にある。実際市民の要望も、スポーツ施設を造ってくれと言うものが最も高い 事は事実。でも、スポーツができればそれで良くて、その後の事はあまり関係ない。

では、市が行ってきた「支援」環境を分節化すると以下のようなものがある。これらは従前従来「サービス」と認識されてきたので、積極的にあるものを「支援」するという角度から捉え 直す事が必要。単なるサービスとは異なり支援になるので、何をどう支援するのか、対象と方 法を巡る市の明確な方針決定が不可欠となる。

エリア・サービス (場所の問題): 各区 1 体育館、1 温水プールの実現 (昭和 51 年「健康都市さっぽろ」以降の一つの成果)

クラブ・サービス (組織の問題); のリーダー・サービスと重なるが、特に「世話人」、リードする人の不在と何を支援したらいいのか分からないのが現状。地域では、体育指導委員、スポーツリーダー、市体育協会があるが、それらの具体的活動はあまり見えない。この再活性化が重要な課題。例えば、Fu's の例でいえば、行事参加者をうまく組織化する (グループ化する) 市担当職員や事業団職員の存在が大きい。彼らにはクラブ化するという見通しがあったし、そのための実践を長いスパンで行ってきた。こうした人を地域の中で育成していかなければならないし、こうした人がやりがいをもって実践できるための方策が必要と考える。リーダ・サービス (指導者の問題): 一生懸命実践している人は、地域に存在する (スポーツ・リーダー研修会での経験)。ただ、例えば研修参加者の欲しているものと、研修内容が合致しているかどうかの検証は必要。

インフォメーション・サービス (情報の問題): 広報誌等で、情報は行き渡っている。インターネットでの施設予約も完備された。今後は、少し狭い範囲でディープな情報を出せたら

いいように思う。実際地域でスポーツをやっている少年団、ママさんバレーの人たちは、スーパー等にチラシを貼って募集している。

プログラム・サービス (行事の問題): 国際的イベントは別にして、大倉山のイベントぐらいしか、市民スポーツイベントは開かれていない。例えば区民体育祭等。クラブ・サービスとの関連で、イベントが一過性になっている事もある。地域でイベントやってもおっくうで行きたがらないのかも知れないが、試合の前に、いいプレイヤーの練習会をやる等参加者が行ってみたくなるような工夫が必要と考える。

冬のスポーツ支援:大倉山のイベント?スキーのリサイクル?Fu's?

## 一つの提言として

市の方でもリーダーの事は気にかけていて、リーダーバンクやボランティアを考えている。しかし、全国的に見てこれらが成功している事例は富山県を除けばほとんどない。理由は簡単で、気の知れた人でスポーツをやっているため、よほどでない限り技術指導をお願いするということはないし、突然来た人に仕切られるのを好まないということらしい。おそらく技術研修会なら人は集まるように思える。

- 1.地域住民で組織されたスポーツクラブをつくる、ないし既存組織をリファインしていく。 その際、市の方から必要な人材、財源、指針等を含めた支援を行う。そのための、クラブ 支援チーム(体育指導委員、リーダー、体協、事業団職員等)を作る。ゆくゆくは NPO と して自立できるような見通しを持って支援する。
- 2. 成果発表の場をつくる。競技会・記録会、イベント等を実施し、日頃の成果を確かめる場をつくる。地域クラブでそれらを組織できればベストだが、それ以前にはクラブ支援チームが少しお助けする。
- 3. 冬のスポーツ支援を行う。具体的には、イベントが中心であるが、単に集まるだけではもったいないので、 冬の遊びのバージョンを広げるため、 安全な技術や実践の仕方を広げる、 参加して良かったと思えるような雰囲気や内容づくり、に留意する。大通り公園やできるだけ公衆の目につくところで。
- 4 . スキーリサイクル NPO をつくる。
- 5.他に、プロスポーツと市民スポーツをつなぐために、コンサの日やファイターズの日を3年ぐらい行う。具体的には、練習会、指導者研修会等。自然に親しむスポーツ(登山、つり、ボート、カヌー、etc.)での環境教育の推進・支援。

以上、思いつくままですが・・・・。